

「農業」をテーマに授業

11月20日、白糠学園の6年生が地元の農業を学ぶ授業を行い、矢部公輝さんが講師を務めました。「総合的な学習の時間」で白糠の五大産業を学ぶもので、今回は「農業」がテーマ。

授業で矢部さんは、カボチャやナガイモなどの栽培工程、農業のやりがいや魅力などを話しました。児童たちは「農業に興味を持ちました」「機械を使って収穫するのがおもしろそう」などと話していました。



——畑一面がカボチャの葉っぱで埋め尽くされていますが、どれくらい

です。私は幕別町の出身なのですが、この辺りは十勝の気候と似ているのです。カボチャやナガイモは暖かい気候で育つ作物なので、この気候は自分が作りたい野菜に合っていると思いました。本当は中庶路くらいが良かったのですが（笑）。ここはブロッコリーなどを育てるには、ちょっと暑すぎるのです。

——畑一面がカボチャの葉っぱで埋め尽くされていますが、どれくらい

カボチャの栽培面積は6ヘクタールあります。サッカーコートでたとえると12面くらいの大きさになりますね。元々ここは牧草地だったので雑草が多く、畑にするのは大変でした。昨年までは3ヘクタールでしたが、雑草を取りながら面積を広げて6ヘクタールになりました。道内でも個人でこの規模は大きい方だと思います。育てているカボチャは「えびす」

特集

上庶路で新規就農

将来を見据えた 果樹栽培にも挑戦

矢部公輝さん

Profile：やべこうき 1987(昭和62)年生まれ、幕別町出身。帯広畜産大学畜産学部卒業後、十勝の農業協同組合に就職。その後、2社の民間企業で働き、2021(令和3)年に地域活性化支援員として白糠町へ移住。3年間の農業研修を経て、2024(令和6)年から上庶路で新規就農。趣味はゴルフ、スキー、キャンプ。

Profile：やべあゆみ 1993(平成5)年生まれ、静岡県出身。趣味は相撲を見ること。

Profile：やべこうよう(公陽) 2024(令和6)年生まれ。庶路こども園に通っています。

※写真は今年の8月末頃に撮影したものです。

——栽培に農業は使っていますか。

農業って良いイメージがないですよ。やっぱり皆さんに安心して食べてもらえるように、農業は状況を見てうまくにしています。たとえば「病気になりそうだな」とか、「虫がついてきたな」というように、ちゃんとしたタイミング

——栽培に農業は使っていますか。

ナガイモは初年度で2アール、2年目は10アール、3年目の今年は15アールと、ちょっとずつ増やしています。本当はもっと作りたいのですが、ナガイモを育てるには石が多くて厳しいです。石のない作土の深い農地がほしいです。

——ナガイモはどれくらい育てていますか。

「ケント」「グラッセ」の3品種です。「えびす」は昔からある品種で、根強い人気があります。「ケント」はハート型で大きいのが特徴で、ここでは3ヘクタールで栽培しています。「グラッセ」は甘くておいしいのですが、作るのが難しい品種なので、1ヘクタールだけで栽培しています。



2021年4月、新規就農を目指して白糠町へ移住してきた矢部公輝さん。そのときの様子は、同年9月号の「広報しらぬか」でお知らせしましたが、それから4年が経ちました。現在の矢部さんはどのように過ごしているのでしょうか。矢部さんにお話をうかがいました。

——これまでの経緯をお聞かせください。

白糠町の制度である地域活性化支援員として3年間の農業研修を受けて、今年の4月に新規就農を果たしました。

研修の1年目は宮木農園でトマトやナガイモを育てて、2年目からは研修という形ですが、上庶路に自分の畑を持って、個人事業主として農業を始めました。新規就農としては1年目になりますが、この畑での栽培は3年目になります。

栽培しているものは主にカボチャとナガイモです。あとは少しですがニンニクとアスパラ、ブロッコリーを作っています。

この場所を畑に選んだのは気候

グを見計らって農業をまくことによって使用回数を抑えて栽培しています。

また、この畑では「土壌診断」をしています。野菜に必要な栄養として窒素、リン酸、カリウムが「肥料の三大要素」と言われているのですが、これらは土壌診断によって過不足を把握することができます。たとえば、窒素の量が20必要とする場合、土壌診断により窒素が5残っていたら、あとは15を足せばいいということになります。しかし、土壌診断をせずに窒素を20入れてしまうと、余った5の分が雨で川に流れ、魚に悪影響を与えてしまいかねません。そういった環境にも十分に配慮をしながら、野菜作りをすることが大切だと思っています。

また、大雨が降った場合、畑があることによってやわらかい土が雨水を吸収し、一時的に貯水することになりますし、作物の根も水を吸収するので、一気に川へ流れるのを防いでくれます。全ての畑がそうとは言いませんが、畑は洪水や土砂崩れを防ぐことにもつながっているのです。